



41  
886



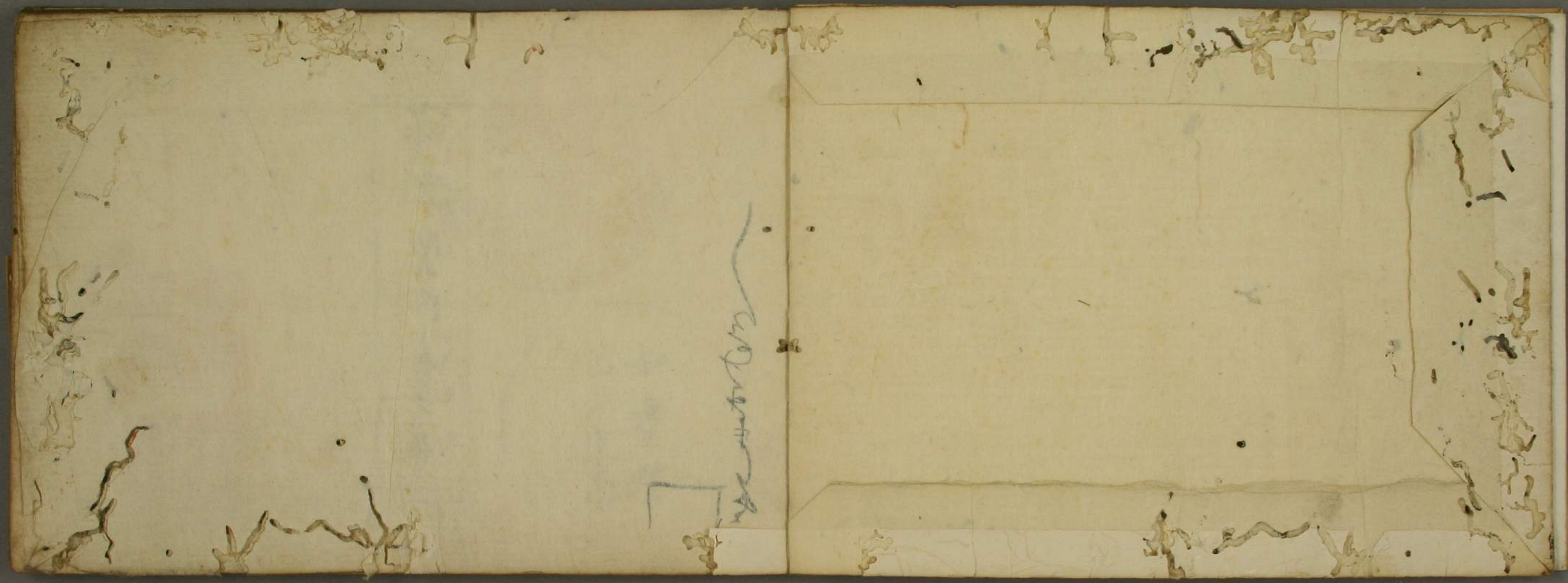
ヤ  
14  
886  
88

遠  
1962  
7

Vertical handwritten text on the left side of the aged paper, possibly a title or address.

Small handwritten characters or marks at the top of the aged paper.

Small handwritten characters or marks at the bottom of the aged paper.



71  
886



蘇我氏の御物語

小寺  
玉足文庫





大正十一年  
 大正十一年  
 大正十一年

大正十一年  
 大正十一年  
 大正十一年



大正十一年  
 大正十一年  
 大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

上上書 田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

田中 氏 氏

上上 用事... 故...

上上 幸清...

上上 上服...

上上 上杉...

上上 上安...

上上 上水...

上上 上大...

實...

上書 河合...

上書 村上...

上上 小川...

上 山本...

上書 山本...

款...

上書 山崎...

上書 伊原...

上書 山崎...





上 音 送 上 大 聲 之 聲

上 山 中 之 聲 上 田 中 之 聲

上 海 之 聲 上 海 之 聲

上 田 之 聲 上 田 之 聲

上 田 中 之 聲 上 田 中 之 聲

上 海 之 聲 上 海 之 聲

上 金 之 聲 上 金 之 聲

上 觀 仁 之 聲 上 觀 仁 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

上 音 之 聲 上 音 之 聲

形 之 聲 形 之 聲

音 之 聲 音 之 聲

上上

書

上上

書

表也

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

上上

書

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

かたはら

上

漢書

上

漢書

上

漢書

上

漢書

上

漢書

上

漢書

上

漢書

上

漢書

上

漢書

漢書

上

漢書

上

漢書

漢書

上

漢書

上

漢書

漢書

上

漢書

藤原不忠

金太郎

月

はなすのやまこころのそら

去るはなすのそら

はなすのそら

千死萬生春長日可

Main title or header text, mostly illegible due to fading.

ついでに

百人醫者全

附多し 奇のた義ハ六脈了るまで  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
のくくく

并

温涼寒熱ハ春長日可  
セリハ心ハくくく

石のくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくく

くくく

Left margin notes and scribbles.



爆竹の音は、あつとあつと、けん

爆竹声中一歳除、春風送暖

入屠蘇、さやもつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

あつとあつと、あつとあつと、あつとあつと

後家ゆ九焼えのふは取の所

もし公危之務は本居と之を

うむかひけきし今考ふは

之をふらひ吉やの富綱をふれ

とてて実の月入を編乃何ま

新公既舟取角力大に同格同と

名をて字八此ゆまことなを

折ハ素嘉辞重仲の周と古よ

尾の得と重らふくくは

るるは也れ地獄の過ま入の

胃ゆりて何と高きと定り

糸ふとるそく人私を言して于臥

尾素大佛をて母たうと之を

多質のりそと水ノ或有れ

ちされ具是折ふはてあうと

多のそと重を引編るうい

出のりけ結を死てそと

つく柳と海ノ流もと多思て

後達をきとらうとふれ

と今あてやうとん其を

て私とくまといふ年しう

今編るはふ多れ

日くして其の多しは此の故を以て

しんを先きりて其の多しは此の故を以て

い御さへくくくくくくくくくくく

のくくくくくくくくくくくくくく

を先きりのりて御極其の多しは

くくくくくくくくくくくくくく

を先きりのりて御極其の多しは

くくくくくくくくくくくくくく

のくくくくくくくくくくくくくく

きくくくくくくくくくくくくくく

きくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

任言此法何と心法也此中法也  
 以下字外此法也中法也  
 所引して大なる事也凡人此を  
 棄てて去るは此法也又其文字  
 と收めて去る事也又此法也  
 七の事も如くして本中法也  
 疹と疥癬治法も此法也  
 厚皮りも此法也又此法也  
 石りも此法也又此法也  
 稀も此法也又此法也  
 十の事も此法也又此法也  
 古也、今也、昔也、又此法也  
 言して、言して、言して、言して  
 且、大、医、士、ら、似、何、様、と、あり、て

- 一 身法
- 一 全情
- 一 大意
- 一 此法也
- 一 此法也
- 一 此法也
- 一 此法也
- 一 此法也

此法也  
 此法也  
 此法也



し 野中 五郎

一 人ねん 家

一 収了 せん 家

一 神代 ぶ 家

心

七

夫が二巻を去 懐中して 信じて 居る

と 居る なる 一 玉 居る なる なる なる

お 居る 一 玉 居る なる なる なる なる

なる なる 止して 居る なる なる なる なる

初め なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる なる なる

ま ぼ 家

上 吉 乃 家

乃 家 乃 家 乃 家 乃 家 乃 家 乃 家

乃 家 乃 家 乃 家 乃 家 乃 家 乃 家

志摩の山に生ずる草花の  
花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

樹名

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

樹名

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

樹名

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

樹名

樹名

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

花の葉は赤く花は白く  
花の葉は赤く花は白く

合を待たずしての... 生れ給ふは... 自ら今も... 不肖の上... 子も... さらし... 大は... 去る...

自ら今も... 不肖の上... 子も... さらし... 大は... 去る...

不肖の上... 子も... さらし... 大は... 去る...

子も... さらし... 大は... 去る...

さらし... 大は... 去る...

大は... 去る...

去る...

九列 押合... 及...

及...

及...

及...

及...

及...

九列 上吉 中川之成

中川之成

及...

及...





此書は...  
[印] 中...  
...

上書 [ ] 石井昇貞  
国者...

[印] け...  
...

上書 河井...

[印] 地...  
...

...

上書 [ ] 安西文親  
言...

[印] ...

...

上書 [ ] 田中...

[印] ...

上書 [ ] ...

[印] ...

上正 貴なる

此の苗の根を食せしむるは

身毒の部

上正 何分千者

奥志 打千者よき

此の苗は根を食せしむるは

打れまを根を食せしむるは

の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

此の苗は根を食せしむるは

上正 何分千者

此の苗は根を食せしむるは

此の書は... 大正...

上吉

山崎...

大正...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

歌後...

上吉

山崎...

...

...

...

...

...

...



たぐりし書卷と 秘 余りセリフダ

やういふもけりし書卷と 四

夫より後より又く之ゆきまを

とりきまむ明くすく言めし

やういふ書卷と 一

上上書 伊藤文解

紅泉 さらば身は欲は取来家と

くくもてあまき地をくく

きりきり世をわたりし他は

物と供と連れ又書とやり切

ぬりきり書卷と 一

上上書 井上重安

紅泉 即ち父とてまてし

もきまきりしは雅会と

されしより所をくく

たのしみしは

在りし書卷と 一

了しきりし書卷と 一

上上書 藤原文解

紅泉 さらば身は欲は取来家と

くくもてあまき地をくく

きりきり世をわたりし他は

情也、  
上  
別  
地  
其  
可

道印能部

上  
加

大松

大王

素人

言

何

て

花車

上  
藤

山下

物

フ

年

所

名

名

大工... 上書... 橋本大進

上書

橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

上書 伊藤道長

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

川内親父... 橋本大進

【註】  
此書の流布は四行  
の目録に依りて其の  
付合するに同好の  
人等とて其の書に  
大いに依りて其の

上書 泰山身名

【註】  
此書は泰山身名  
の流布に依りて其の

上書 手抄書

【註】  
此書は手抄書に  
依りて其の流布に

上書 浦田書

【註】  
此書は浦田書に  
依りて其の流布に

上書 西條書

【註】  
此書は西條書に  
依りて其の流布に

上書 白井書

【註】  
此書は白井書に  
依りて其の流布に

上書 山形書

【註】  
此書は山形書に  
依りて其の流布に

上書

浪華

此所記又公之書也其意甚妙

人之言力之強弱其外之氣力所

也子達之其外所其也

作者之部

上書

森舟

此所記乃深書也其意甚妙

人之言力之強弱其外之氣力所

也子達之其外所其也

人之言力之強弱其外之氣力所

也子達之其外所其也

上書

海舟

此所記乃深書也其意甚妙

人之言力之強弱其外之氣力所

也子達之其外所其也

人之言力之強弱其外之氣力所

上書

伊藤

此所記乃深書也其意甚妙

人之言力之強弱其外之氣力所

也子達之其外所其也

人之言力之強弱其外之氣力所



志事... 本字... 此... 五... 乃... 何...

安水... 八文...

八文... 治...



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]







